

164
452

見けん
眞しん
大だい
師し

安あん
心しん
相さう
續ぞく
い
ろ
は
欽しん
令れい

惠ゑ
燈とう
大だい
師し



親鸞聖人御詠いろはうた

(い) 今までは六趣四生をめぐり来て

生死の二字をばなれ果ばや

論ずれば生死の二字もまよひかな

不生不滅とよきたまふには

たよりとなさる老の身の

法のをしぬはなびき樂しみ

すみしおどこそ浄土なれ

さとりて見れば方角もなし

菩薩とは如來ほとけのはじめかな

さとりて見ればひとつなりけり



親鸞聖人御詠いろはうた

(一) 隔てぬる地獄ごくらくよくきけば

(二) たゞ一身のなしばなりけり

(三) とこまでも悟りて見れば極樂は

(四) よしあしとも言葉もなし

(五) 智者たちのときおき給ふ法なるを

(六) さとりて見ればひとつなりけり

(七) 理をわけてしらぬ人まで光明に・

(八) てらされぬればぐちむちもなし

(九) ぬす人のかくるゝ山をたつぬれば

(一〇) 地水火風のうちにこそあれ

(一一) 流浪するわが身のかたを案ずれば

(一二) わるき心にきかれぬるかな

(一三) をもふべき佛をさらに念ぜねば

(一四) 悪事ばかりをたへみこそすれ

(一五) 忘れんとおもふ悪事はあすれねど

(一六) よきとのみがうつねにわするゝ

(一七) かなしきとおもふとをば忘れねど

(一八) 地獄の苦をばおそれざりける

(一九) 世とうしとおもふころの常ならば

(二〇) のちの世までもきのみ憂かうじ

(二一) 誰ともねがふ心のひとしくば

(二二) はちすに法のほとけなるへし

(二三) 蓮臺に法の道しばひきすてゝ

(二四) さらばなき身となるる嬉しき

(三)

許多の經聖教をよみぬれば

いたづらとのくちづさみなり

(四)

つくぐとうまれぬさきを案ずれば

泪もやふすいまがうれしき

(五)

寐てもうしとめてもつらき夢世を

南無とたのみて後生たすかれ

(六)

何事もあだなる世とはしりながら

後世をねがはぬ人ぞはかなき

(七)

樂にのみほこるばかりを嬉びて

後世をいのらぬ人ぞうれしき

(八)

むつまじき親子にだれも捨られて

ひとりおもふく道としらすや

(九)

うきとも嬉しきとも今ばかり

生死はなれてきはりなければ

(一〇)

命おどあだなるものはよもあらじ

たゞあさびほの花のうは露

(一一)

後世をねがふ人ころかしこけれ

ふくさいはひは夢のたはふれ

(一二)

己れとは思ひもよらぬ法のみち

知識ならてはいりですとらん

(一三)

苦しみのかなしきことを思ひても

後世をねがふがかしこかりける

(一四)

病ほど物うきとはよもあらじ

ことにつらきは貧苦なりけり

- (ま) まどろめる夢のうき世にたづきはり
後世かわするゝことづかなしき
- (け) けふまでのわるきこゝろを改ためて
いそぎてたのめ彌陀の誓ひに
- (ふ) 振舞とこゝろとぐちととゝのへて
彌陀の御法をとく人をよき
- (こ) ましかたもまた行すゑも今ばかり
樂の身なればまして苦もなし
- (に) 繪にうつす神やほとけの誓にも
彌陀の淨土をねむへとぞきく
- (こ) てりわたる月日も西に傾きて
みだの淨土をねむへとぞ聞く

- (あ) 朝夕の世路ばかりをたしなみて
後世をねむはぬ人が果なき
- (と) どのみなどうきとのにぞつもるらん
かすならぬ身はとに有けり
- (き) 聞くてわが身の上をあんすれば
彌陀のちかひをたもつ尊とぞ
- (ゆ) 夢の世にあやふき命もちなむら
とむくあつがふ人がはりなき
- (め) 目のまへにある佛をもしらはころ
まして淨土はいがでしるべき
- (み) みちびきて人をたすくる法の師の
慈悲のこゝろ尊かりける

- 〔一〕 死するとは迷ひの前にみゆれども
 さとりて見れば不滅なりけり
- 〔二〕 繪て見れば色もかたちもなきものを
 とかくあつかふ人ぞまよへる
- 〔三〕 非をしらぬ人を誰ぞと案ずれば
 わが身ひとりとうへにありけり
- 〔四〕 もろくの佛は彌陀のほめたまふ
 罪ふかき身をたすくるがゆゑ
- 〔五〕 前後をはみなりちすて、南無とただ
 彌陀をたのみて後生たすかれ
- 〔六〕 すみなれし此世ばかりの宿なるを
 こゝろをとむる人ぞはりなき

蓮如上人御詠いろは歌

- 〔一〕 いく度もきくにあかぬは法の道
- 〔二〕 そむればいづる信心の色
- 〔三〕 ろくどうにひく業障の綱を切
- 〔四〕 つるきなりけるみだの名號
- 〔五〕 はづかしとくはであやまる法の道
- 〔六〕 ふみまよふべき人ぞはかなき
- 〔七〕 にせものはかり安きにかはらぬは
- 〔八〕 まどのしんのしるこなりけり
- 〔九〕 ほのぐと心にうかぶ稱名の
- 〔一〇〕 ほのよりふかきしんぐはなき

(一) へいぜいに佛の恩をむねにひて
 (二) ほかにまつべき來迎をなし
 (三) となふれば恨み悔の雲はれて
 (四) むねにはのこる信心のつき
 (五) ちしきより迷ひの闇に手を引れ
 (六) いまにかゝやく花にこそすめ
 (七) りこんなる人をうらやむ心ころ
 (八) みだのちがひをしらぬゆへなり
 (九) ぬれてほすたもとは法の涙にて
 (一〇) ほとけの恩をしる人ぞしる
 (一一) きてんして又あひびたき御法なり
 (一二) おろそかにきく人ぞかなしき

(一) といぬれば心かたちもよはりゆく
 (二) 後世のねがひも若うちなり
 (三) わが身をばいたづらものとおもふべし
 (四) よしとおもふは自力なりけり
 (五) くる身を助たまへるうれしきを
 (六) つねにおもふは憶念といふ
 (七) よしあしの心につけてねん佛の
 (八) 口にたへぬをさうづくといふ
 (九) たのむ機とわがきとむり迷ひけり
 (一〇) 他力になればわがものはなし
 (一一) れんげ座にのり得るまでは唱へつゝ
 (一二) 佛の恩をふかくはうぜよ

- (そ) うしるまじたとへとびある人なりと
- (つ) わびあやまりはそれさまされり
つみとびのうすくなるとは覺ねど
- (ね) ほとけの恩が深くしらるゝ
ねんぶつのおずればよらぬ信なれど
- (な) 信にはおずの多きねんぶつ
なむの二字十八くはんのびなめなり
- (ら) たのむころをたまはりにけり
らくの士をむかしはいろぐ心なし
- (む) いまはたのしむしんぐのはな
むつまじき人のひびめる教には

必それらうつる世の中

- (う) うきとをよるこふ心もある物を
- (め) いのりごころをやめよみな人
あまはしとおもふころはおのづから
- (の) 穢土をいとはぬしなりけり
のちのよをねぶころのふかければ
- (お) この世のつみもうすくなるべし
おのづから口にうかむたしなむも
- (く) わび機そはねばみな他力なり
くもるともくらくはあらじみた頼む
- (や) 人はかゝやくみねの月かげ
やまひある身に稱名のおこたるは

いりねのけたいはおもひしらるゝ

- (ま) まうねんのおこるにつけて唱なまふれば
- (た) まうねんきよてあと念ねんぶつ
- (け) けだいとはまとのうすき心こころぶと
- (く) くゆるこころをいけとはいふ
- (ふ) ふしぎよりふしぎとおもふ心こころこそ
- (み) みだのちのひのしごとくなりけり
- (こ) このたびはまよひさとのわけめなり
- (あ) あつちのちのちとふくちのち
- (い) いどなむらこゝもはちすの臺たいなり
- (み) みだたのむ身みみはねぞめうれしき
- (て) てらねぞのりのすゝめとおもひつゝ

聞きにつけてはとなふべきなり

- (あ) あさましと思おもひなむらも忘念わんねんの
- (や) やまぬにつけてたふとかりけり
- (さ) さだめなきうき世よの中に定まるは
- (み) みだたのむ身みみのさとりなりけり
- (き) きものりもなむあみだ佛ぶつの内に有あり
- (わ) わが機はりさうふる人ひとがあやふき
- (ゆ) ゆめにだに佛ぶつをおもむ心こころころ
- (ご) ごびにわづれる人ひとといふべく
- (め) めぐめたゞ人あしかればなにはむた
- (わ) わが身みみにととのむのむしらなみ
- (み) みのとぞとくはどよやまぬ身みみなれとも

くゆるこころをおこすべきなり

〔一〕 しらずともしるに同じとあやまりて
 をしぬを聞ぬ人うかなしき
 〔二〕 ちがたきは他力の信ときくものを
 たふとむべきはむねのしんぐ
 〔三〕 ひととにくせをは笑ふ世の中に
 うらやむべきは念佛のくせ
 〔四〕 もらさしと廣き誓ひの有ばとて
 たくみてつくる罪はゆるさじ
 〔五〕 せいぐはんのふしぎならすばいかにして
 うたむひはるゝ身とはなるべき
 〔六〕 すゑの世の法のをしへのいろは歌
 なからんあとのかたみともなれ

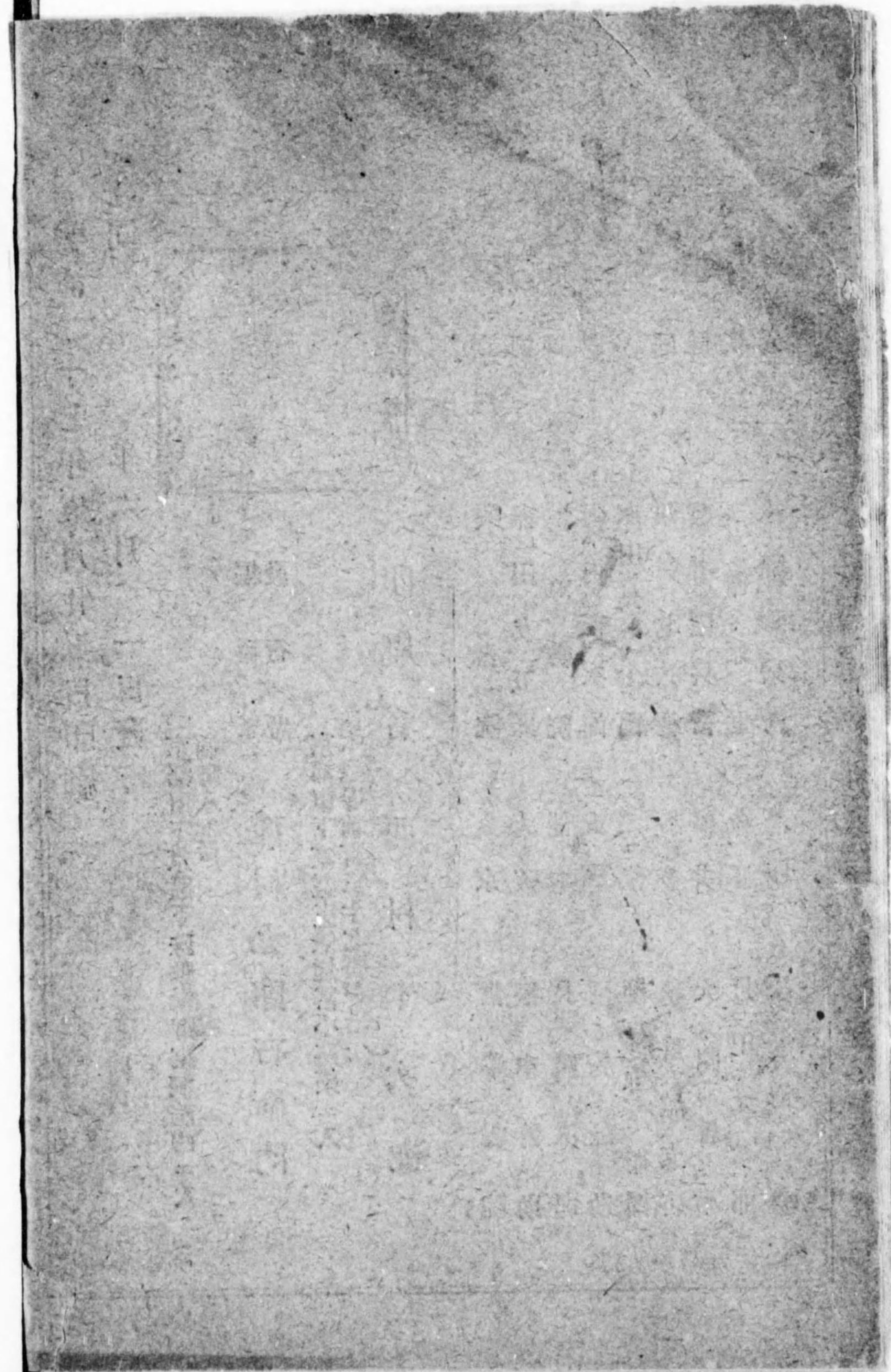
明治二十七年五月廿五日印刷
 同 年六月 一日發行



編輯者 西村九郎右衛門
 發行者 西村九郎右衛門
 印刷者 西村十次郎
 京都市下京區下珠數屋町東洞院西エ入
 橋町八番戸

發賣所

| | | | | | | | | |
|-------|------|-------|-------|--------|-------|------|-------|------|
| 盛岡 | 名古屋 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 京都 |
| 池野藤兵衛 | 三浦兼助 | 藤井佐兵衛 | 西村七兵衛 | 永田長左衛門 | 山内正次郎 | 顯道書院 | 澤田友五郎 | 興教書院 |
| 高岡 | 金澤 | 福井 | 博多 | 三條 | 大垣 | 能本 | 大坂 | 東京 |
| 學海堂 | 近田三郎 | 大岡曾平 | 積善館支店 | 樋口小左衛門 | 岡安慶助 | 長崎次郎 | 松本善助 | 哲學書院 |



164
452

惠燈大師

安心相續
いろは歌

見眞大師



017341-000-2

特16-111

安心相續いろは歌

西村 九郎右衛門 / 編

M27.6

ABF-0028

